会長に就任して

小　林　宏　治*

今般，日本オペレーションズ・リサーチ学会の会長に選任されましたので，一言御挨拶申し上げます．私はORのエキスパートではないが，ORの重要性は充分承知しているものの一人であるという理由で，会長に選ばれたのではないかと信じています．

私は，終戦直後，昭和21年から統計的品質管理，あるいは実験計画法などの近代的手法を手始めとして，新らしい経営管理手法を取り入れることに努力して来ました．特に，昭和29年から30年にかけて，わが国にORが紹介されるや，私はその重要性を感じ，早速会社内の若い者達に呼びかけ，その勉強を始めてもらいました．お蔭でこれらの人々が中核となり，逐次実際問題の解明にORを応用する段階に達することができました．

たまたま，昭和32年，日科技連で機械工業のOR委員会が創設され，それに私も参画する機会を得て，ますますORの普及の重要なことを痛感しました．

その後会社内での私の仕事はいろいろに変わりましたが，一日としてORが念頭を去ったことはなく，当学会の会員として，深い関心を持ち続けて来ました．今回OR学会の会長に推されましたが，以上のような関係から非才ながらあえてお引受けした次第であります．

今日の世の中は，ORの始まった当時と異なり，コンピューターの著しい発達，情報処理の広範な普及があり，ORの活躍分野であるシステム・テクノロジー，あるいはシステム・エンジニアリングなどの巨大な分野を取扱う問題が起きて来ました．近代の経営管理を進めるに是非とも必要とする複雑多岐の要因を一つのシステムに纏める能力は，ORの考えを入れないでは生れて来ないものであります．さらにORを基とした各種プログラムを商品として発売する段階となり，これらをソフト・ウェア工場で生産するという時代になりました．情報産業の必要であるところ，必ずORが必要となってきたわけであります．

しかしながら，ORというものは，とかく学究の対象になり勝ちで，一般の人には入り難いという感覚は，いまだに拭い去られておりません．立派な道具も広く使われなければ，価値が半減します．この意味において，広く実務にたずさわる人々に入り易くする手掛りを与えることも大切と考えます．すなわち理論の研究も大切でありますが，広範囲にわたるORの普及も当学会の大きい任務の一つとして取り上げてゆきたいと考えております．会員の皆様の御支援と御協力をお願いする次第です．

* 日本電気株式会社　取締役社長

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．